

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者）	・商品開発や販路拡大等の業務提携を進めていた商談が来月以降から具体的に始まる。
		通信会社（店長）	・3月、4月は卒業式、入学式がある。来客数も増え例年並になる。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	・3月、4月以降も予約状況を見る限り旅行代理店からの予約が順調に推移しており、稼働率も良くなる。
	変わらない	スーパー（経営者）	・原油高に伴い、全般的に価格が上昇しており、客の買い控えの状況がますます強くなる。さらに、競合店との競争もますます激化しており、利益面でもますます厳しい状況になる。
		コンビニ（エリア担当）	・売上は前年比でほぼこう着状態で、今後もこの状態が続く。客数の減少傾向も同様であり、今後も好転する要因が無
		衣料品専門店（経営者）	・街に活気が感じられない。単価、客単価共に1月から5%は上がっているが、購入客数が10%程下がっている。この傾向がここ数か月続いているので、様子をみたい。
		観光型ホテル（営業担当）	・年間での修学旅行の人数は減少しているが、4月は前年より若干増加する。ゴールデンウィークの予約状況がまだみえないので、当面は厳しい印象がある。
		観光名所（職員）	・沖縄観光は平成19年10月以降伸び悩みの状況にあり、2月の入域観光客数も前年同月を維持する状況になる。沖縄への入域観光客数は、原油高に伴う航空運賃、諸物価の高騰の影響により厳しい状況が予想されるが、これから海の季節を迎え前年同月並みの数字は維持する。
		ゴルフ場（経営者）	・特段大きな変化はみられない。現状維持とみている。
	やや悪くなる	百貨店（担当者）	・原油高騰や小麦価格の上昇により生活防衛感が増大する。ただし食品全般が好調に推移していることや、バレンタイン等のモチベーションが大幅に伸び前年比で20%上昇していることから、食品、ギフト（返礼、お祝い他）は堅調に推移する。衣料は季節与件の影響を強く受けながら、今後も苦戦傾向は継続する。
			・県内における建設業の倒産は増加する。税政策の決定遅れもあり、消費に関しては、今まで以上に慎重になる。
		コンビニ（エリア担当）	・観光客の減少や地元客の誘客も厳しく推移している。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・原油高騰による原料の高騰、さらに輸送料の値上げにより現状の価格では販売出来ない状況にある。しかし、販売価格を値上げすれば更に買い控えが増えかなり厳しい事態になる。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・販売見込み、集客見込みが共に低調である。
		高級レストラン（営業担当）	・特に5月の団体の受注状況が前年を下回るペースになっている。
通信会社（サービス担当）		・携帯業界は競争が厳しく先が読めない。厳しくなる。	
悪くなる	商店街（代表者）	・商店街のエリアは観光土産品店、飲食店が多くなっており、お互い客を奪い合い、客割れを起こしている。全県的な消費は伸びても、同エリアは厳しい状況下に置かれている。地元客は郊外に流れている。	
		・値上げがなかなかできない。また、大手フランチャイズの出店が予定されており、オープンすれば3か月間は客がかなり移動する。さらに、大手と地元の賃金格差からアルバイト等の時給の値上がりは必至である。	
	観光型ホテル（総支配人）	・競合施設増加により宿泊人数で前年比10%減少、婚礼を中心にバンケット部門売上も15%以上減少する見込みである。	
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		コピーサービス業（代表者）	・同業者については、売上に差が出てくる。当社は、営業社員がここに来て定着しており、良くなる。実際の市場では仕事が無いのではなく、市場の要求する質を上げ、評価されることが大事である。近い内の設備導入の準備を着々と進めているので、これ以上悪くはならない。
	変わらない	建設業（経営者）	・引き合いから、制約に至るまでの時間が長期化している。
輸送業（営業担当）		・物流業界については今のところ明るい兆しのネタが無い。	

		広告代理店（営業担当）	・好調な観光産業や不動産業界とは逆に、県内流通業界や泡盛・ビール等の酒類メーカーは広告・マーケティング予算を削減する傾向にあることから、さほど大きな伸びは期待できない。
	やや悪くなる	食料品生産業（管理部門）	・売値上げはできないが、原材料・肉類や副材料及び燃料費等々の値上がりが見込まれるので、やや悪くなる。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	学校〔専門学校〕（就職担当）	・求人数、求人数共に前年度を上回り、人材不足の様相を呈している。また、今年度の採用活動に際し予定人数を採用できなかった企業は随時採用を行いながら、新卒に目を向けるという状況が続く。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・現在の派遣依頼、売上、利益が伸びている状況が今後とも好調に続くかどうか不透明である。新規の依頼が増えるが、その分契約終了も2、3か月中で発生し、結果現状維持となる。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・将来への不安感が大きくなっている。例年春先には求職者の動きが活発化する傾向はあるが、その影響を差し引いても変わらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・県内企業の求人の活気は、前年の同時期に比べてやや弱くなっている。ただし、県外の求人は相変わらず多い状況である。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・個人消費が底堅く推移していると言われている中、4月からの小麦粉売渡価格の値上げ、電気料金の値上げ等、消費者動向にマイナス、基幹産業の建設業の不調、建設関連業の不調がある。
悪くなる	-	-	